

地域銀行の平成 30 年 3 月期決算の概要

1. 損益の状況（銀行単体ベース）

- 30 年3月期は、株式等関係損益が増加したものの、貸出金利回りの低下等により資金利益が減少したことや、債券等関係損益が減少したことなどにより、当期純利益は前年同期に比べ、0.4%の減少。

（単位：億円）

	28 年 3 月期	29 年 3 月期	30 年 3 月期	前年同期比
業務粗利益	46,842	43,729	42,707	▲ 1,022
資金利益	39,813	38,419	38,319	▲ 100
役員取引等利益	5,471	5,010	5,297	287
債券等関係損益	856	▲ 372	▲ 1,213	▲ 841
うち、債券等償却	▲ 57	▲ 14	▲ 20	▲ 6
経費	▲ 30,936	▲ 30,894	▲ 30,528	366
実質業務純益	15,905	12,834	12,178	▲ 656
与信関係費用(※)	▲ 872	▲ 861	▲ 1,065	▲ 204
株式等関係損益	1,609	2,136	2,751	615
うち、株式等償却	▲ 95	▲ 55	▲ 36	19
当期純利益	11,729	10,002	9,965	▲ 37

※ 与信関係費用について、正の値は益を、負の値は損を表す。

（参考）

	28 年 3 月期	29 年 3 月期	30 年 3 月期
貸出金（末残）	242.0 兆円	251.0 兆円	260.6 兆円

2. 不良債権の状況（銀行単体ベース）

- 不良債権額は 29 年 3 月期に比べ減少、不良債権比率も低下。
（いずれも平成 11 年 3 月期の金融再生法に基づく開示以降で最低）

	28 年 3 月期	29 年 3 月期	30 年 3 月期
不良債権額	5.2 兆円	4.8 兆円	4.5 兆円
不良債権比率	2.13%	1.90%	1.71%

3. 自己資本比率の状況（銀行単体ベース）

- 国際統一基準行の総自己資本比率は、29 年 3 月期に比べ上昇。

- 国内基準行の自己資本比率は、29 年 3 月期に比べ低下。

（国際統一基準行：11行）

（国内基準行：95行）

	29 年 3 月期	30 年 3 月期
総自己資本比率	13.94%	14.01%
Tier1 比率	13.34%	13.61%
普通株式等 Tier1 比率	13.34%	13.61%

	29 年 3 月期	30 年 3 月期
自己資本比率	9.86%	9.70%

（注1）記載金額・比率は、四捨五入して表示。

（注2）30年3月期の集計対象は106行（地方銀行64行、第二地方銀行41行及び埼玉りそな銀行）

（注3）与信関係費用・不良債権の計数には、再生専門子会社分を含む。